

「大田区学習効果測定」結果の分析

- ・正答率は基礎、活用ともに目標値を上回っている。
- ・達成率(領域別、観点別経年比較)においても平均正答率がすべて目標値を上回っている。
- ・領域別に分析する区分においても、正答率はすべて目標値を上回っている。

重点課題

- 〈自然事象への関心・意欲・態度〉
  - ・身のまわりのことから課題を見つけ、進んで調べる方法を考えたり、工夫したりしようとする態度の育成が課題である。特に動物や植物などの生命に関心をもつことが課題である。
- 〈科学的な思考・表現〉
  - ・具体的な自然の事物や現象にかかわりながら、その変化やはたらきについて条件に目を向けながら問題解決していく力の育成が課題である。
  - ・課題を明確にした上で観察や実験を行い、変化について自ら考えることを意識させることが課題である。
  - ・実験や観察を行い、その変化について理由を説明し、わかったことを自分の言葉でまとめていく力の育成が課題である。
- 〈観察・実験の技能〉
  - ・観察や実験のポイントをおさえることと実験結果の変化を予想し、実際にやってみるもののつながりや技能の習熟が弱い。
- 〈自然事象についての知識・理解〉
  - ・自然事象の知識だけではなく、それに至るまでの過程をも含めた理解をさせることが課題である。

授業改善策

- 〈自然事象への関心・意欲・態度〉
  - ・身のまわりの自然現象を日常的に意識させ、疑問をもてるよう学校教育全体の中で働きかける。スローガン「うわぁ～大発見」を広める。
  - ・具体物や教科書、資料などを効果的に用いて、児童が観察や実験にさらに取り組みやすくなるよう工夫する。ICT教材を使って資料の提示を行う。(デジタル教科書、動画教材等)
- 〈科学的思考・表現〉
  - ・生活の中の事象を科学的な見方で考えさせたり、根拠をもって予想を立て、見通しをもって問題を解決させたりする展開を充実させる。考える時間をしっかりと確保する。
  - ・「変える条件」「変えない条件」に着目させて計画的に実験できるようにする。
- 〈観察・実験の技能〉
  - ・観察・実験が正しく行えるように、器具や実験装置等の使い方について、ICT教材を使って示したり、ノートにまとめさせたりして習熟を図る。
- 〈自然事象についての知識・理解〉
  - ・ある事象について疑問をもったときは、いろいろな資料を活用して解決できるようにする。そのために、資料(百科事典や理科関係の本、ICT教材)が利用しやすい環境を整備する。
  - ・一つの知識からさらに深く広く調べていけるような場・発問を授業に取り入れ、もの作りなどの体験活動を通して日常生活との関連性を理解させる。